

- 富岡市の収繭量約2割を占める年間1tを超える繭を生産
- 開設から4年で40名以上の障害者雇用を創出
- 伝統的な養蚕も引き継ぎつつ、新たな職域展開で様々なことに挑戦



パーソルサンクス株式会社 とみおか繭工房

富岡市



- ▶ 代表者: 中村 淳
- ▶ 設立年月日: 2017年6月
- ▶ 資本金: 1,000万円
- ▶ 従業員数: 全社: 450人
内とみおか繭工房: 59人
- ▶ 住所: 富岡市妙義町中里818
- ▶ TEL: 0274-73-3350
- ▶ URL: <https://www.thanks.persol-group.co.jp/>

当社HPへは
こちらから→



企業紹介

当社は総合人材サービス パーソルグループの特例子会社として、障害のある方々に、仕事を通じた活躍の場を提供しながら、社会的に自立してもらうことを最大の使命としています。

そのなかで、富岡市にあるとみおか繭工房では、高齢化が進み縮小を余儀なくされている養蚕業の課題を解決するため、桑園の管理から養蚕、さらには絹糸を使った、グループ会社のノベルティの製作に至るまで、持続可能な取組を少しずつ拡大しています。

経緯・背景

- パーソルグループの成長性を鑑み、グループ中期計画として数百人の障害者の新規採用計画を立案。特例子会社である当社がその一翼を担います。
- 新規採用に当たり、首都圏での雇用創出だけでなく、地方での雇用創出を目指します。地方での拠点展開のコンセプトとして、その地域の課題解決を地域とともに実践することを掲げます。
- 群馬県内の障害者の実雇用率は2015年11月時点で全国ワースト2位であったことや、高齢化する養蚕農家の継承と富岡製糸場の来場者数減少に課題を抱えていた富岡市を候補地としてアプローチを開始しました。
- 訪問を重ねる中で富岡市から当社への期待感と地域連携のしやすさから半年以内に事業所開設を決定しました。

具体的な取組

○障害者雇用を目的とした会社であることからその雇用創出への取組を実施

<人員体制：障害者の雇用創出成果>

2017年6月 障害者 7名 (知的 5名 精神2名) 健常者 3名 ※開設時

2018年4月 同11名 (知的 8名 精神3名) 同 6名

2019年4月 同25名 (知的20名 精神4名 身体1名) 同 9名

2020年4月 同40名 (知的30名 精神9名 身体1名) 同 13名



蚕に桑をあげている様子

○国内養蚕事業の継承と事業の拡大による地域産業への貢献

- 1 繭の出荷
養蚕1年目は収繭量280kg。2年目に養蚕経験者を常勤雇用し技術向上(収繭量1,145kg)。3年目は増員、増床により増産成功(収繭量1,542kg)。4年目の今年度、増産は抑制しつつ、障害のある社員が中心となった養蚕に注力(収繭量1,250kg)。市全体では6.4tであることから19%を占める割合になっています。
- 2 糸の製作、販売(手仕事)
座繰り製糸および手織りの機織り、桑枝の繊維を抽出してつくった和紙の商品化に成功し、人手があることを強みにしたオールハンドメイド商品として販売しております。桑の和紙は富岡市の2020年、2021年成人式で配布された記念品ノートにも活用されました。
- 3 入浴剤の企画・開発・販売
県内の企業と連携し、糸にならない本来ならば処分してしまう繭からシルクタンパク成分を抽出し、シルク入り入浴剤を企画し、メーカーに開発製造を委託し販売しております。

成果・効果

- 1 環境視点：
養蚕に必要な桑園の維持管理を実施することで耕作放棄地にならないように農地として活用しています。新植桑園では2年目春に4,500本、3年目春に13,000本の桑苗を定植し3年目から使用し、域内のCO₂削減に貢献しています。
- 2 産業視点：
1次産業である養蚕事業から、座繰り糸の製作や和紙製作の加工業、織物の産地である桐生市の企業とのコラボレーションによる製品開発(マスク・入浴剤・除菌液等)、グループ内への販売等、6次化を推進しています。将来の産業の担い手になりうる富岡特別支援学校へ座繰り糸の提供や、近隣の小学校へ蚕の提供等を実施し、産業理解を深めました。また、農福連携によりコンニャク農家のピークシフトを実現しています。
- 3 雇用視点：
2017年の開設から4年で約60名の雇用を創出しました。障害者手帳の有無や老若男女を問わず、働く職場となっています。また、1ターンでの就職先にもなっています。



繭工房製作物展示

当社にとってのSDGsと、その展望

- ・目標8「働きがいも経済成長も」
グループ全体で障害者雇用の開発を進めています。当社がそのなかでもリードできるよう、養蚕を起点にシルク製品や多品目の野菜等付加価値のある仕事をつくっていきます。このことで地域内の経済成長にも寄与したいと考えています。
- ・目標10「人や国の不平等をなくそう」
工房への通勤等が困難な障害者に向けて、拠点となる駅からの通勤バスを自社で用意することや、社内情報の掲示にあたってはふり仮名を入れること等、移動や情報の機会均等をはかっています。継続的に職場での機会均等や能力開発に取り組んでいきます。